

私の初恋

チャソミエットゥヤ

初恋は誰もが経験することであり、幼少期の最初のステップの一つです。僕にとって、初恋の人との関係は微笑ましくもあり、同時に9年間も好きだっただけに、ちょっと切なくもあります。

始まりは小1の時。彼女と私は同じクラスだったので、当時はまだ幼く、どのように彼女を好きになったのが覚えられません。それで、子供の頃、彼女にラブレターを書こうとしたのですが、スペルも分からなかったので、母やおばさんにたのむしかありませんでした。

運わるく私の親戚もその子の家族もみんな知り合いだったので、おばさんに誰に渡すのか聞かれて、彼女の名前を言ったら母が、「私の友達のお嬢さんじゃない？」って。その瞬間、私はショックを受けました。その後母は親戚や友人にそのことを話してしまい、私は恥がかしくなりました。

ここからは彼女との話です。実は中学の時は仲良くなつて、毎日遊んだり、お弁当を一緒に食べたり帰ったりして、その頃はまた彼女のことを好きだ。たから、毎日会うようになつていくのが好きだ。彼女の家と私の家は少し近かったのので、毎週末はお互いの家に遊びに行き、ていまして、私は彼女の親友だったので、日常生活を共にしてました。中学生になったある日友達からきかされた。彼女のグループの前を通った時に彼女は私のことが好きだと言っていたまじです。でも、私は自信がなくて信じられませんでした。二年後、高校生になり、その頃から友達関係が冷え込んできました。ほとんど話もしなくなり、前みたいに遊んだりもしなくなりました。でも、高校が終わる前に最後の告白をしたのですが、叶いませんでした。今、彼女は外国で勉強してて、私は日本で勉強して行くので、それぞれ道を歩んでいきます。初恋はあまくて、はい味がしました。